

① 暖かい着方を考える。

！ セーターのような空気をぬく、
ふくむ衣服で暖かく感じる

目 重ね着
→ 体と衣服の間に層が出来る
ため、熱を保てる!!

目 屋外での工夫
◆ 風を通しにくく素材の上着
◆ 首回りやえび口が閉じた衣服
◆ 体の一部をおおう

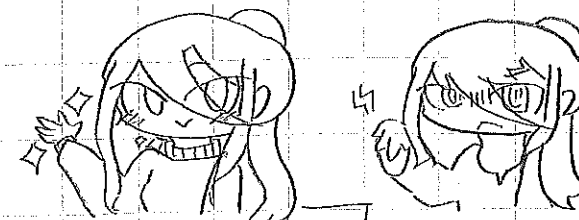
? どちらが暖かい?

手 ぶんくろ ポリぶんくろ

1 枚 空有 ○

2 枚 ○ 無

衣服



閉じてる ← 開いてる

さじつごとび
着るのを入木が
入るといわれる
← これは夏など
（じつじつ）



- ② 1 重ね着のあったかき理由を
正確に知ることよか、たびる。
2 そして今回もナシイにノート
に家庭科を復習してみました。
3 つぎの授業住まり方もかん
ばろうと思ひました。

自分自身が理解しやすいように
イラストを用いてまとめているのが
すばらしいです。

痛 痛み強い。頭痛(あ)苦痛(く) 痛感(いたかん)

批 作品を批評する。批評(ひ)批評的(ひはんてき) 批評家(ひひょうか) 批判を受ける。

傷 心が傷つく。重傷(じゅうしゅう)傷口(きずぐち) 感傷(かんしゅう) 負傷(ふしゅう)を受ける。

若 若者が集まる。若葉(わかば)若草(わかくさ) 若い建築家。若芽(わかめ)

閉 店を閉じる。閉鎖(へいさ)閉館(へいかん) 閉居(へいきょ)閉める。閉幕(へいまく)

遺 遺書を書く。遺品(いひん)遺作(いさく) 世界遺産(せかいいさん)の保護。遺産(いさん)

翌 翌日の朝。翌朝(ぎょ)翌月(ぎょ) 翌年の予定。翌年(ぎょねん)

縦 縦横(じゅうけい)に走る道。縦断(じゅうだん)縦走(じゅうそう) 縦書き(じゅうき)の手紙。縦笛(たてふえ)

頂 山頂(さんてい)に立つ。頂上(ていじょう)頂点(ていてん) 頂(てい)頂く。山の頂。登頂(とうてい)

忠 忠実に取り組む。忠義(ちゅうぎ)忠臣(ちゅうしん) 忠告(ちゅうこ)を無視(むし)する。忠犬(ちゅうけん)

識 意識(いし)をちかう。識意(し)忠識心(ちゅうしきん) 識人(しじん)識意(し)識意(し)

敵 敵(てき)と戦う。天敵(てんてき)無敵(むてき) 敵(てき)が現れる。敵意(ていき)

蚕 養蚕業(さんさんぎょう)を営む。蚕糸(さんし)蚕業(さんぎょう) 蚕食(さんしょく)かに蚕を飼う。

己 自己(じ)しょうかい。自己流(じこりゅう)自己満(じこまん) 利己的(りじてき)な考え。自己主張(じこしやう)

除 除雪作業(じゆせつさぎょう)を行う。除去(じょきょ)除外(じょきょ) 除(じょ)のものを除く。除外(じょきょ)

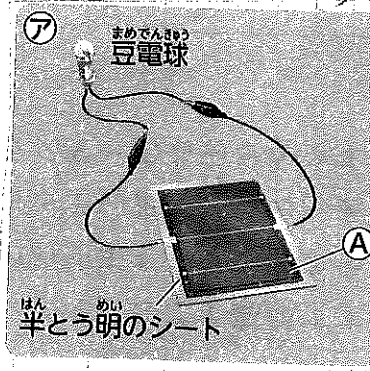
理科 プレテス ト 器具(き)の使い方や、電気の利用に ついて答えましょう。

(1) 手回し発電機(てまわしはつでんき)は、ハンドルを回すといふことをすることができますか。(発電)

(2) 豆電球(まめでんきゅう)をより明るくするために、手回し発電機(てまわしはつでんき)のハンドルを回すといふことができますか。(速く回す)

(3) 光(ひかり)を当てると電気を流すといふことができますか。(ソラーパネル)

(4) (3)で光(ひかり)を当てるのをやめると、豆電球(まめでんきゅう)の明かりはどうなりますか。(消える)



音訓の確認と熟語練習 ともていぬいに練習できています。

11/13 (水) 3時~4時10分
7. 新しい文化と学問

①江戸時代の文化の中でどのようなものが伝わっているだろう。

江戸時代の文化
大都市の人々が中心で広がった
暮らしに余ゆう多くの人が楽しめる

・歌舞伎 ・人形浄瑠璃
・相撲 ・花火 ・食事

江戸時代に生まれた文化が現在
までに受けつがれている。

政治の中心である江戸は
「将軍のおひざもと」とよばれた
全国の産物が集まる大阪は
「天下の台所」とよばれた

②江戸時代には、こうした人々が
になう新しい文化が生まれた。

学習した内容をていねいにまとめています。



文章の中で漢字練習ができています

11/16 (土) 5時~6時10分
縦書きの手紙み。山頂に立つ。忠告を無視する。
誠実な人。敵が現れる。蚕を飼う。自己しよかい。
ごみを除く。仁義を重んじる。泉がわく。裏庭。
系図を調べる。同盟を結ぶ。意欲的な行動。大き
な切り株。善い行い。班長になる。危険をさける。
ガラスが割れる。空否を気づかう。至急対応する。
すぐに帰宅する。糖分をおぎなう。口紅を買う。

江戸の様子が上ちにまとめられています

11/13 (水) 社会 - 新しい文化と学問

あ 大阪の港のにぎわい
年貢米や特産物が大阪に集まり、「天下の台所」とよばれた。

い 新しい農具
江戸時代に広まった農具

う 交通と各地の主な産物

①
たくさんの歌舞伎や人形浄瑠璃の脚本を書いた。

②
全国各地を測量して、正確な日本地図をつくった。

次の話は、あ・いのどちらの資料から分かりますか。□に記号を書きましょう。

- ① 江戸時代には新しい農具が各地で使われるようになりました。

② 多くの蔵屋敷がつくられた大阪は、「天下の台所」とよばれました。
- い

あ

(2) うの資料から、五街道の中で江戸と京都を結んでいたのは、中山道ともう一つは何という街道ですか。

東海道

(3) 前のページの①・②の人物を書きましよう。

① (近松門左衛門) ② (伊能忠敬)

ア 当時の医学書の図

「解体新書」の図

① 歌川広重の絵

ヨーロッパの画家の絵

(1) 「解体新書」が出版されたことなどから広まった学問を書きましよう。

(蘭学)

(2) ①②の二つの資料について、正しいものにしつとをつけましよう。

○ 当時の医学書の図には色がついていない。「解体新書」の図のほうが正確である。「解体新書」は中国で翻訳された。

図があって分かりやすいです。人